

学位論文及び審査結果の要旨

横浜国立大学

氏名	周易知
学位の種類	博士（工学）
学位記番号	都市博甲第22号
学位授与年月日	2016年 3月 24日
学位授与の根拠	学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）第4条第1項及び横浜国立大学学位規則第5条第1項
学府・専攻名	都市イノベーション学府 都市イノベーション専攻
学位論文題目	中国東南海岸地区における伝統的民家建築の特質に関する研究
論文審査委員	主査 横浜国立大学 教授 大野 敏 横浜国立大学 教授 北山 恒 横浜国立大学 教授 大原 一興 横浜国立大学 准教授 藤岡 泰寛 横浜国立大学 准教授 守田 正志

論文及び審査結果の要旨

周易知氏の論文は、中国東南海岸地区（おもに浙江省・福建省およびこの両省に隣接する江西省・広東省の一部も含む）における伝統的民家建築の特質を、平面形式・構造形式を主軸として地域性の視点を踏まえて分析し、明らかにしたものである。分析対象民家は当該地区内における15世紀半ば～20世紀半ばの上層階層を中心とする伝統的民家建築遺構293件である。

周易知氏は、母国中国における伝統的民家の消失状況に危機感を抱き、その文化遺産としての重要性を明らかにするべく、日本の中世建築に多大な影響を与えたとされる東南海岸地区に注目した。そして先行研究から伝統的民家遺構を博搜して293件をリスト化し、資料不足の遺構は現地調査をおこない資料を整備した。そのうえで平面形式と構造形式の2視点に基づいて、地理的条件・言語学的条件を加味して分析を行い、東南海岸地区の民家建築に受けつがれてきた土着的な建築文化について明らかにした。

具体的な論文構成は、「序説」、「第一章 東南海岸地区の伝統的民家」、「第二章 東南海岸地区伝統的民家における平面的特徴」、「第三章 東南海岸地区伝統的民家の構造的特徴」、「第四章 東南海岸地区民家建築の系譜」、「結論」で、それぞれの要点と成果は以下の通りである。

まず、序説において、中国における民家建築研究の現状を踏まえて、東南海岸地区における伝統的民家建築様式の実態解明が、①中国における原初的な建築系統としての「東南民家（北方系民家とは異なる系統）」ともいべき固有体系を示し得る、②中世の日本建築に強い影響を与えた「大仏様」建築様式の源流を具体的に特定できる可能性がある、という2点において学術的に重要であることを述べた。そして具体的な研究範囲としての東南海岸地区における地理的・歴史的・民族的・生業・交易などの諸条件を整理したうえで、当該地域において現在確認できる293件の伝統的民家をリスト化した。なお、293件の中で基礎資料が不足していた41件について自ら現地調査を実施した。研究手法は、既往研究から東南海岸地区民家の概要を把握し（第一章）、平面形式の類型化による様式研究（第二章）および構造手法に注目した様式研究（第三章）を通して建築様式の詳細分析を行い、特徴把握を行った。そして、その特徴が地域的な諸条件の中でどのような分布を示すのかを検討した（第四章）。以上の考察を意通して、東南海岸地区における伝統的民家建築の特質を明らかにした。

第一章は、既往研究の総括として、東南海岸地区の諸相と伝統的民家建築概論を示した。ここでは、対象地域における沿岸域の長さや山地の多さ、限定された交通体系という条件のなかに多数の民族・言語体系が存在する特徴を指摘するとともに、現在知られている伝統的民家を集落単位と建築個体の視点から一覧表化して、基礎的資料を整えた。

第二章は、収集資料の中から平面の規模と構成に着目して類型化を行ない、①「一」字式平面、②合院式平面、③囲い屋式平面の三類型において整理・分析を行った。その結果、「一」字式平面が当該地域固有の平面形式であり、他の2類型は、他地域からの建築形式が移入されて変化普及に至ったものと指摘した。

第三章は、構造的な特徴に着目して分類整理し、軸部構造に関して①梁・柱構造は貫構造

を中心にする穿斗式フレームであること、②海老虹梁的な繋ぎ材を多用する、③面取り角柱を使用する場合がある、の3点が東南海岸地区伝統的民家の著しい特徴であることを示した。次に壁構造に関して、当該地域は煉瓦造による防火壁が次第に普及する傾向を示すものの、高温多湿の地域性から見て自律的な展開でなく、周辺からの影響と指摘した。また、軒構造に関して指肘木工法に注目し、①浙江東部の出組斗拱、②浙江南部の二手先斗拱、③福建東部の三手先挿肘木、④福建南部の二手先斗拱、⑤他の地域に分布する挿肘木の変形、の地域的特徴を明らかにした。

第四章は、第二章・第三章で示した平面と構造における特徴が、当該地域において、どのような分布状況を示し、その分布がどのような条件のもとに形成されたのかを、総合的に検討した。その結果、①横に展開する主屋式平面、②海老虹梁、③角柱構造、④防火壁構造を利用しないこと、⑤指肘木による組物構造、の諸点が、当該地域の固有の建築的特徴と把握し、その最も濃厚な地域が閩東地域であることを指摘した。

以上の考察により、東南海岸地区における伝統的民家固有の建築様式の実態とその濃密な分布地域が明確となり、全体として東南海岸地区伝統的民家の本来形式は、中国北方の伝統的民家形式とは異なる存在であることがあらためて確認された。あわせて、従来漠然と「日本大仏様建築の源流は福建省の地方様式」と理解されてきた建築様式の源流に関する課題について、具体的に閩東地域である可能性が高いことを指摘したことは注目される。

次に審査結果の要旨を記す。周易知氏の学位論文試験は、平成28年2月5日（水）午前9:00～9:50に建築学棟1階大会議室において公聴会として開催し、論文発表と質疑を行った。発表は論文主旨、既往研究、自らの調査研究の独自性、調査分析過程、結論について、図版を適切に用いて発表を行った。質疑に関しても、研究の独自性の問題、特に今まで具体的な資料が不足していた山岳地域における基礎資料収集に様子や、その成果について地誌的視点をもって総合的かつ詳細に分析検討した経緯が確認された。

続いて同日午前9:55から建築学棟1階小会議において審査員全員出席のもとで審査委員会を行い、発表および質疑内容ともに妥当であること、論文本体も予備審査時点での指摘事項に対して適切に修正されており、完成されたものであることを確認した。すなわち、周氏の論文は、既往研究のうえに新たな調査と独自の視点を加えて、中国民家建築史研究の中に重要な知見を加えたものと高く評価し、今後の発展性も期待できるものと認めた。以上により博士（工学）の学位を得るに相応な学力があると判定した。また、外国語能力に関しては、査読論文において英文概要を執筆していることと博士後期課程入学試験において英語試験を経ていることにより、英語能力に関する学力を認めた。また、中国語を母国語とするにもかかわらず、日本語で論文執筆を行い、日本語で最終試験を行って十分な応答をした点も評価された。以上によって周易知氏の最終試験は合格と判定した。

注 論文及び審査結果の要旨欄に不足が生じる場合には、同欄の様式に準じ裏面又は別紙によること。